

本願寺 御歴代門主シリーズ

その十三

本願寺第十四代宗主

寂如(じやくによ)上人(一六五一〜一七二五年)

寂如上人は、慶安四年(一六五一)、本願寺第十三代宗主良如(りようによ)上人のご子息として誕生されました。

寛文二年(一六六二)、父である良如上人のご往生の後を受け、上人は十二歳の若さで本願寺第十四代の法灯を継職されました。

その後、ご逝去されるまで宗主としての在職期間は六十三年にわたり、歴代宗主のなかでもっとも長い在職でありました。

寂如上人が継職された当時は、幕藩体制のもと江戸幕府の諸制度が整いつつあり、仏教政策のうえでは本末制度や、寺請制度が確立された時代でありました。

寂如上人はこのような時代に対応し、これまで必ずしも統一されていなかった宗内の諸制度を整えられ、免物(めんもつ)や行事、歴代御影(ごえい)の色衣や形態の規定・僧侶の法衣・勤式作法の改正など、再三にわたり制条を出されました。

そのなかには法衣・衣服・お斎(とき)・葬式・乗り物等について、華美にならないよう誠められたものもありました。また、天台声明伝承の地である大原の魚山声明(ぎよさんしょうみょう)をもとにして、浄土真宗の声明(しょうみょう)の改定にもあたられました。



本願寺第十四代宗主 寂如(じやくによ)上人

教団組織の面では、北山御坊の創設や、江戸・大坂・金沢・岐阜などの御坊(別院)を拡大・再興されました。

なかでも、江戸御坊(現築地本願寺)再建については、明暦三年(一六五七)の大火により坊舎を消失した替え地である八丁堀海上に、佃島門徒衆の力により地を築き、翌年には仮の坊舎が建立されたものの、その後、幕府の厳しい規制のなか本格的な再建はままならず、ようやく延宝七年(一六七九)に大規模な本堂が完成されました。

本山においては、現存の経蔵を建立されました。また、大谷本廟では現在の廟堂、明著堂の拡張整備、総門の新築などをなされました。

一方、寂如上人は詩文や書道に秀でた学徳の方であり、大谷本廟の「明著堂」や、総門に掲げられている「龍谷山」の額は上人の筆跡であります。享保十年(一七二五)七月八日、七十五歳にてご往生されました。

(解説)免物とは、ご本尊、その他の御影像やお聖教のこと。(解説)声明とは、節譜・旋律を定めた読経のこと。

※参考文献 福岡光起著／

「親鸞聖人と本願寺の歩み」(永田文昌堂)

今後の法要スケジュール

「仏教婦人会報恩講」(善教寺本堂)

三月 七日(金) 追悼法要：午後一時半〜

昼席：午後二時〜

八日(土) 朝席：午前十時〜

総会：午後一時半〜

昼席：午後二時〜

講師 足利孝之師(兵庫県尼崎市 安養寺)

*送迎マイクロバスを運行します。

*仏教婦人会主催法要

*仏婦会員追悼法要・仏婦総会開催

「宗祖聖人月忌・

門信徒祥月命日法要」(善教寺本堂)

三月十六日(日) 午後一時半〜

*毎月十六日に本堂において勤めております。

「柏原春季彼岸会」(柏原説教堂)

三月 十八日(火) 昼席・夕席

十九日(水) 朝席・昼席

講師 根来智師(呉市阿賀北 宝徳寺)

「永代経法要」(善教寺本堂)

四月 十二日(土) 朝席：午前十時〜

朝席：午後一時半〜

講師 中村英龍師(佐伯区湯来町 最広寺)

*送迎マイクロバスを運行します。